

## 令和2年 地域懇談会（玉中学校区）

I 期日：令和2年12月2日（水）

会場：すこやかセンター

II 開会時刻：19時00分

閉会時刻：20時30分

### III 会議内容

#### 1. 開会

#### 2. 説明（学校教育課長 教育総務課長より）

#### 3. 質疑応答

（参加者）中学校の学校数を半分にした場合、支障は出るのか。あまりにも生徒数が少ないところがあるので学校数を半分にした方がいいと思う。学習内容もレベルアップさせたほうがよい。社会に出たら、韓国や中国、ベトナム等の外国に働きに行くこともある。外国語、韓国語、中国語等の基礎的なことも教えた方がいいのではないか。数学のように高級なものではなく基礎的なもの、その方が、何年か先に役に立つのではないか。

（教育長）一度に学校数を半分は難しい。また、地域が違うので、生徒がどのように通学するかも議論の必要がある。生徒数が減っていることに対しては対処していかないといけない。単純に減っているから学校をくっつけるというものではないので玉野市全体で考えていく大きな課題であると考えている。

外国語については、小学校にも入ってきている。現場には外国語が使えるようにしていく教育が入ってきている。今後さらにそのような教育は進んでいく。

（参加者）ICTもよいが、人の命の大切さをどこで教育をするのか。生きるために必要な基礎的なことを学習した方が本人にとっても良いのではないか。どうやって生活していけばいいのか、そのようなことを、子どもたちに話をした方がいいのではないか。

（教育長）道徳が教科化され、心の面は強化されていると思う。すべてのことにタブレットが使われて、どんどんICT化が進んでいるというイメージが強く、使うことのみという印象を受けるかもしれない。学校は人と人とが一緒に学習し、遊

んだり活動したりするものなので心の面は非常に大切である。生きるためのエチケット、生きる力を養うということはこれまでも学校でも取り組んでいるので、これからもそういった力を身に付けさせていきたい。

(参加者) 児童数の減少が課題にあがっているが、三井造船が今後どうなっていくのか心配している。予測ができにくいだろうが人口は減っていくと思う。今回示された数字は、三井造船の今後の動向をヒアリングした数字なのか、単に出生数で出したのか教えてほしい。

(学校教育課長) 今回示したものは住民票に示されている出生数で出している。

(参加者) 日比中学校は数が不特定だが、日比に限らず、他の地域にも、三井造船の影響はあるのではないかと。三井造船に情報を前倒しにに入れてほしいという働きかけがしているのではないかと。

(学校教育課長) 難しい問題だが、日比中学校の状況は昔からである。若い夫婦が定住しようと思うと、岡山市の南区に行く傾向があるのではないかと。玉野市を魅力ある市にしていくことも大切である。

(参加者) 心配しているのは、職場替えをしてよその地域に働きに出ていくのではないのか。今回のような情報を示すときには、考えられる状況を踏まえて検討してもらいたい。

(参加者) 今、中学校区一貫教育の話があったが、義務教育学校として1年生から9年生までという形がとれれば、ギャップがないという良い面を伺えた。例えば、同じ土俵にあるかはわからないが、一貫教育ということであれば、中学校から小学校に教職員が入ってもらえれば、教員数の不足に対応できるのではないかと。また、発達障害の子どもについて、6歳までの教育が大切と聞いている。6歳は義務教育の前段階であり、その時期が大切になる。玉野市では療育を受ける環境が非常に少ない。就学前に普通に療育を受けさせてあげられるような教育ができれば、小学校に上がっても学校に行きやすくなるのではないかと。今は本人が希望しないと療育を受けられないと思うが、みんな同じように療育に行けるようなシステムができれば良いと思う。

(学校教育課長) 玉原小学校は今年度少しずつ教科担任制を導入してきている。中学校の教員ではないが、小学校の中で工夫して今年度から始めている。中学校の教員が来て教えることも兼務をかけているので可能である。中学校も人手がないのでなかなか行くことができない。教員数については法律で決まっている。それに加えて加配が数名つくこともあるが、教員不足は解消できないのが現状である。各中学校区で工夫して、中学校の音楽の先生が学習発表会の前に指導に來たり、体育の先生が、陸上記録会の指導に行くといったことも進めている。お

っしやるような形でできれば良いが、教員数というところで難しい壁がある。特別支援教育については本市では平成24年から進めている。一般の方には知られていないが、本市の幼稚園、保育園、こども園は他地域に比べ障害のある子どもに優しい環境調整を取り入れてやっている。すべての子どもに優しい教育環境をインクルーシブ教育というが、療育機関と園も、ケース会等をしてながら連携して混じり合いながらやっている。たしかに市内に療育施設は少ないと思う。単純に増やすのは難しいと聞いている。療育の場だけでなく、すべての園の日頃の生活の中でやっていければと思う。

(参加者) 理想的なことを聞いて、その通りだったらなぁと期待できる部分もあったが、現実的には難しそうだと思う。先生の質の向上が伴わないと前進していかない。先生を教育していくこと、質の向上が大切ではないか。夏休みは教員もすべて休みにして、自分で経験を積んだり、働き方改革のことも言われるが、なかなか早く帰らない残業している人が多い。仕事をほって帰ったらどうか。

(学校教育課長) 課題の一つとして、若返りが挙げられるが、経験が浅い教員が多い中、OJTで若手を職場で成長させることが喫緊の課題だと感じている。各校長も工夫しながら取り組んでいる。働き方改革については月45時間以内でとされている。難しい現状ではあるが工夫を凝らして取り組んでいる。

(参加者) 子ども同士のいじめの事件の解決は親身になって取り組んでもらえない。根本的な解決に至らないこともある。今日の説明も絵空事に近いと思える。本気になって取り組んでほしい。

(参加者) 昨年、我が子がわかば教室でお世話になり、大変助かった。場所が自分で行くには難しく、交通環境が整っていないので、送り迎えが難しく利用できていないお子さんが多いようである。子どもだけで通える場所があれば、利用できる人が増えると思うので検討していただけたらと思う。

(学校教育課長) 以前は荘内市民センター近くにあった。今後、利用しやすい場所を確保していないといけないと考えている。ご意見を参考に検討していきたい。

#### 4. 閉 会